

政策決定へのデータ利活用①（「データ利活用プロジェクト」）

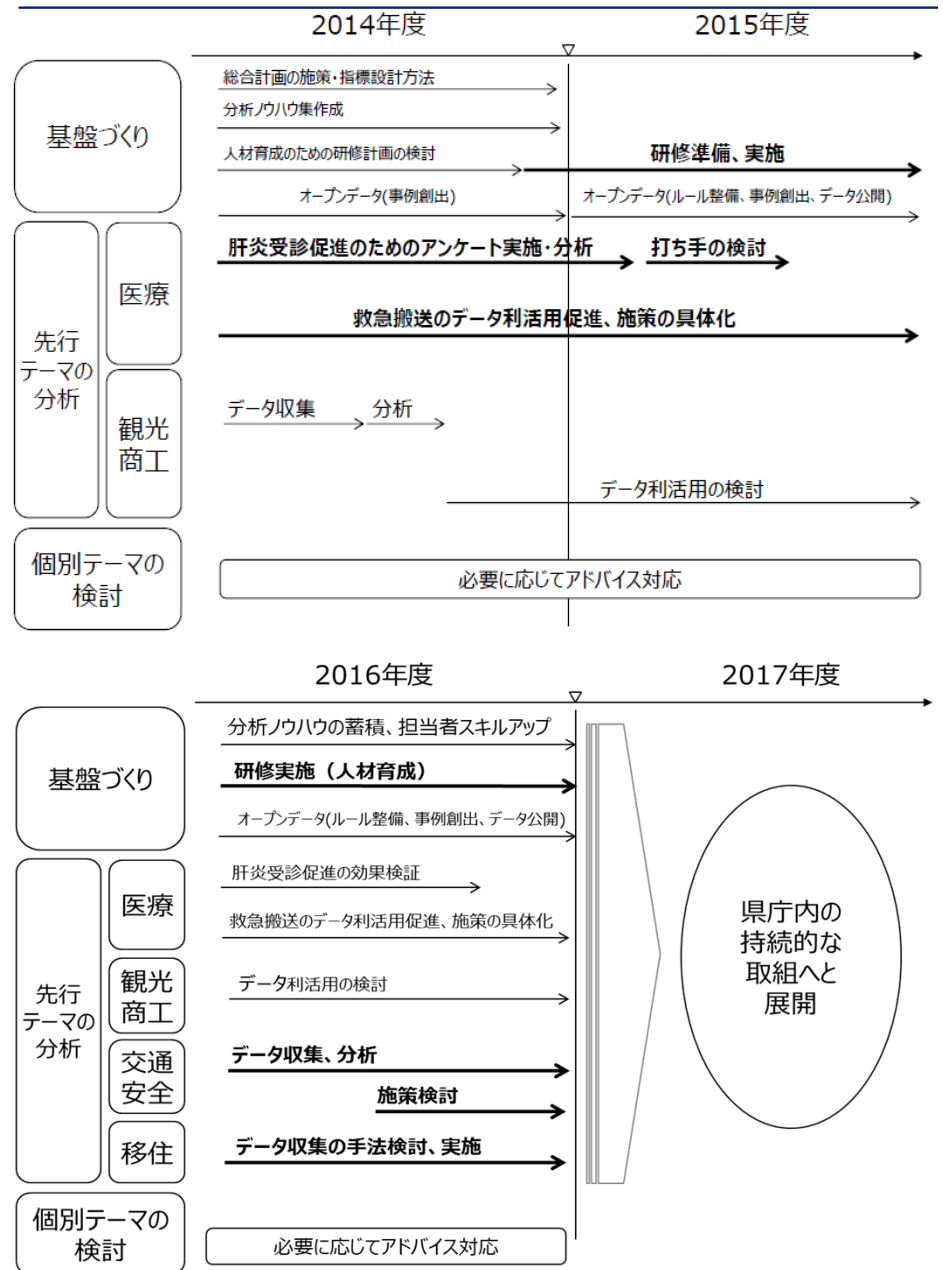
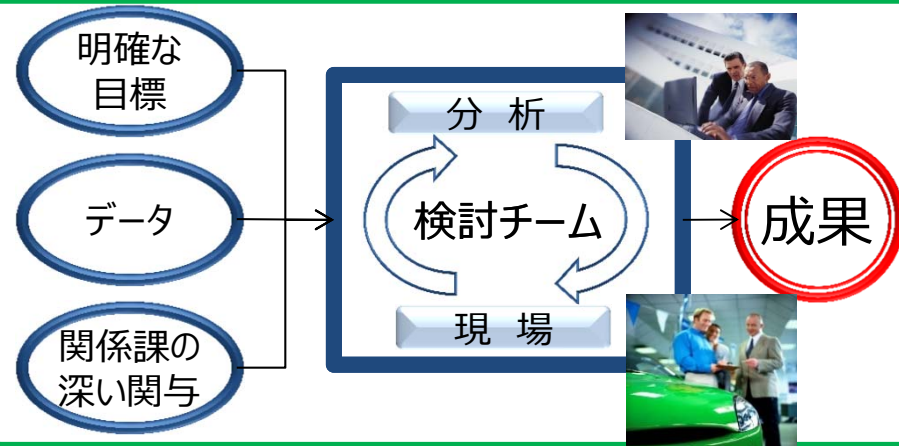
背景

- これまで県では、膨大な統計データをはじめとする様々なデータを保有しているものの、それを各施策の取組に生かすための十分な分析が行われず、政策立案等への活用が不十分
- 県が持つデータを収集・分析し、政策立案・評価等への活用を図ることで、より効果的に施策や事業の推進する必要性

概要

- 先行的にいくつかのテーマの分析を実施（救急、肝炎）⇒「ナレッジ」（知識資産）の蓄積
- 統計データを利活用できる人材を育成する、研修等の実施
- 個別テーマへの展開（交通安全、移住）

取組の全体像



政策決定へのデータ利活用②（「データ利活用プロジェクト」）

事業を行うときの課題

- ・ 経験や勘のみならず、データ利活用も併せ持った業務遂行意識の浸透・定着
- ・ 様々なデータ利活用業務に対応できる役割分担・連携体制の構築（統計分析課／県庁全体／外部専門家）

成果

<事業全体>

- ・ 先行テーマの分析を通じた分析ノウハウの蓄積
- ・ 研修受講後の職員による個別テーマへの取組
- ・ 総合計画策定、評価にデータ分析視点の導入

<先行テーマ>

（救急搬送データ）データの提供・活用による課題の共通理解の促進、分析結果を活かした「99さがネット」の改修
（肝炎受診促進）患者アンケート分析結果を用いた、より効果的な受診率向上資材の制作

事業成功のポイント

<事業全体>

- ・ 明確な課題意識のある先行テーマの選定
- ・ 上記知見を活用した実践的な職員研修の実施

<先行テーマ>

（救急）データクレンジングに当たっての現場ヒアリング（結果、救急車両の配置変更の事実発覚）
（肝炎）仮説に基づいたアンケートの設問設定

詳しい内容について

○ 紹介記事URL

第1回統計利活用表彰総務大臣賞受賞

<http://www.pref.saga.lg.jp/toukei/kiji00351634/index.html>

データサイエンスを行政の現場に、まずは救急医療データを可視化—佐賀県の工藤氏が講演（日経コンピュータ）

<http://itpro.nikkeibp.co.jp/atcl/news/14/082900637/>

肝炎ウイルスを除去する治療への助成（佐賀県）

<http://www.pref.saga.lg.jp/kiji00334092/>

救急医療の改善にデータ活用を提案、学生による課題解決コンテストで佐賀大チームが最優秀賞（日経Big Data）

<http://business.nikkeibp.co.jp/article/bigdata/20141110/273650/?bpnet>